

福島県PTA連合会



PTA 福島 第116号

県P連活動スローガン **子と親が共に育つPTA活動を**

編集：調査広報委員会 印刷：株式会社第一印刷

特集

「福島県PTA連合会70周年記念式典・第69回福島県PTA研究大会福島大会」報告

県PTA連合会会長あいさつ



会長 平塚康晴

第69回福島県PTA研究大会福島大会が、「子どもたちにエールを！～見て、会って、話して、感じて、学んで、五感でつながる喜びの輪～」の大会主題のもと開催されました。今大会は、コロナ禍の中で、オンラインによる初めての大会運営となりました。この大会のアーカイブ配信を視聴していただくことにより、今後の都市連Pならびに各単位PTAでの研究大会、研修会等の参考になれば幸いです。

どのような状況にあっても子どもたちの学びを止めないのと同じように、私たちの活動も、より多くの保護者の皆様に絶えることなく情報発信をしていきたいと考えております。

また、福島県PTA連合会創立70周年記念式典も併せて行われました。

昭和26年に福島県PTA連合会は社会教育関係団体として発足し、研究大会や研修会等の交流活動を通して会員相互の絆を深め、子どもたちの健全育成を図ることを目的に活動が受け継がれてきました。創立60周年の記念事業は、2011年3月11日の東日本大震災及び福島第

一原子力発電所事故による甚大な被害状況を判断し中止となりました。

そして今現在、昨年から続いています新型コロナウイルスの影響は未だに収束の気配が見られず混乱が続いております。しかし、どんな状況でも諸先輩方が築き上げてきた思いを私たちは次の世代へ受け継がなければなりません。これからも福島から素晴らしい人材が育ってきますよう皆様と共に努力を重ねてまいります。ご理解、ご協力をお願いいたします。

結びに、南相馬大会実行委員会の皆様、会津若松大会実行委員会の皆様の思いを受け次いで、ご尽力をいただきました齋藤友則実行委員長をはじめ、福島大会実行委員会の皆様に感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。



実行委員長あいさつ



齋藤友則
実行委員長

一昨年、昨年と開催することができなかった福島県PTA研究大会でしたが、今年度は福島大会及び県PTA70周年記念式典をオンラインという形で開催することができました。昨年から続くコロナ禍により様々な活動が制限される中、福島県PTA役員、福島市PTA連合会県大会実行委員会の皆様のご協力をいた

だしながら開催できたことは、今後にもつながる有意義な大会であったと感じています。改めまして県大会に携わっていただいた方々に感謝申し上げます。

コロナ禍により、PTA活動は勿論のこと、子どもたちの生活、私たちの生活は大きく変わることになりました。保護者が学校へ行く機会が減った、子どもたちが楽しみにしている学校行事が減ってしまったなど、

集うことのできない、つながることがなかなかできなかった時間は目に見えない様々な影響を私たちに与えていると思います。そのような中でも、少しでも前に進もうとすること、親として子どもたちと一緒に学び続けることはとても大事なことでおりました。今回の大会のようなオンラインであっても「つながる」ことができることが分かりましたので、来年度の白河大会においては福島県下のPTAの皆さんといろいろな形でつながれることを楽しみにしています。

目次

「福島県PTA連合会70周年記念式典・第69回福島県PTA研究大会福島大会」報告	P1
70周年記念式典・第69回福島県PTA研究大会「記念講演」リポート	P2
合同研修会レポート	P2
東北大会レポート	P3
安全互助会	P4
晴れの表彰おめでとうございます	P4

70周年記念式典・第69回福島県PTA研究大会「記念講演」レポート

◇講師 音楽家 大友 良英 氏 ◇演題「福島とつながってきたこと そしてそこから生まれたもの」



実行委員 湯野小学校
PTA会長 安藤正希

講演会の冒頭、大友さんが福島を意識し関わるようになったのは、震災後「ノーモア福島」という言葉に誇りを傷つけられ、福島に何かできることはないか考えるようになったからだ、とのお話がありました。大友さんはこの10年間、福島を想い、音楽イベントの開催・校歌の作成など様々な場面で音楽という手段を通して、福島とつながり、福島を応援し続けてくださっています。

このコロナ禍でつながりが薄れている反面、つながり方の多様化 (SNSやオンラインなど) もあり、とても大

変な時代だと思います。大友さんの講演の中で、「音楽の多様性は、音楽を豊かにする。一人じゃダメ、つながりが大切、つながることで心が豊かになる」という言葉が、とても心に沁みました。時代は変わろうとも多様化しようとも、つながりは大切です。心豊かにPTA活動に励み、そして子供たちにもつながることの大切さを伝えていきたいと思います。



合同研修会レポート

9月17日(金)に「小中懇談会」と「母親代表懇談会」の二つの研修会を一つに統合して、会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式で研修会を実施しました。指導主事の先生方の基調講演を聞いたあと、活発な意見交換が行われ、オンラインでも充実した研修会が実施できました。



齋藤友則
副会長

合同研修会第1テーマのグループでは、福島県教育庁社会教育課社会教育主事の角田敏文様より「地域と学校の『つながり』を作るPTA」をテーマにご講義をいただき、参加者との意見交換を行いました。家庭、地域、学校が連携・協働して子どもたちと関わっていくことの重要性、国、行政側の動向、地域で子どもたちを育む様々支援活動など、我々保護者として考えるべきことがたくさんあると気づかされるお話でした。参加者との意見交換はZoomを使用して福島の各地域のPTA活動の現状なども伺うことができ、とても有意義な研修会となりました。



第1テーマ「地域と学校の「つながり」を作るPTA」基調講演 福島県教育庁社会教育課社会教育主事 角田 敏文 様



鈴木崇史
副会長

テーマ2『研修活動の「今」を知る』は福島県教育庁社会教育課主任社会教育主事石井智明様を講師にお招きしてご講和を頂き、さらにその講話内容を踏まえて参加者がそれぞれに抱えている課題や悩みについての発表や質疑応答が行われました。研修内容や参加率については各PTA共通の課題ですが、講師からのアドバイスや発表者による実例を聞いたこと、さらにはオンライン方式とした今回のような研修方法自体も今後の活動に大いに参考になりました。ご参加頂いた皆様には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



第2テーマ「研修活動の「今」を知る」基調講演 福島県教育庁社会教育課主任社会教育主事 石井 智明 様



相田知津子
副会長

今年度、副会長を拝命致しました相田知津子と申します。微力ながら、福島の未来を担う子供たちのために、頑張りたいと思っております。先日、小中別懇談会・母親代表懇談会を統合した研修会を開催いたしました。私が参加した部会のテーマは「いろいろな特別支援の形を知る」でした。コロナ禍での、初めてのオンライン・会場でのハイブリッド開催となりましたが、沢山のご視聴、ご意見をお寄せいただき、充実したものとなりました。今後は、各単P・郡市連Pに本研修会の成果を活用していただきますとともに、より多くの会員の方々へご参加いただけるようになって欲しいと思っております。



第3テーマ「いろいろな特別支援の形を知る」基調講演 福島県特別支援教育センター 主任指導主事 加藤 賢一 様

東北大会レポート

令和3年9月4日(土) オンライン開催

第53回日本PTA東北ブロック研究大会は、完全オンライン配信での開催となりました。

本県からは、平塚会長が大会副会長として、第4分科会の運営責任者を務めました。

また、副会長の宗像真人さんが第1分科会のパネリスト、母親代表理事の大平 泉さんが第4分科会のパネリストとして参加して活動事例と意見を発表されました。

第1分科会 特別・防災

『災害時子どもたちの教育活動を支え、充実させるためのPTA活動の在り方』

パネリスト 副会長 宗像 真人



宗像副会長

9月4日(土)に行われた第53回日本PTA東北ブロック研究大会盛岡大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインでの開催となりました。4つの分科会もオンラインで行われ、私は第一分科会のパネリストとしてリモートで参加させて頂きました。第一分科会のテーマは「特別・防災」についてです。災害時に、子供たちの教育活動を支え、充実させるためのPTA活動の在り方について話し合うというこ

とでした。そこで、私は2年前の令和元年東日本台風で、甚大な被害を受けた平第四小学校の事例について話をさせてもらおうと考え、当時のPTA会長の後藤進一さんに取材をさせて頂きました。その取材をもとに、水害で学校が避難所になると、地域住民や自衛隊、マスコミへの対応など、先生方にかかる負担が大きくなるため、子ども達の心のケアについて時間が作りにくくなるという問題点を発表させて頂きました。

それらの問題点を解消するために、災害時のPTA活動をどのように行っていけばよいかについて、みんなで考えた分科会になりました。



第4分科会 健全育成

『「新しい生活様式」と子どもたちの健全育成の在り方』

パネリスト 母親代表理事 大平 泉



大平母代理事

郡山市立行健小学校PTA会長を務めて4年目となりました。本校は再来年に150周年を迎える伝統校で、私の母校でもあります。そこで女性初のPTA会長を務めることができたことは、大変光栄でした。

当時は振り返ってみると、5年の頃は1352名のマンモス校で、翌年には隣に明健小学校ができました。6年では校舎の改修工事。校庭にプレハブが設置され、外での体育はできません。それでも不思議と不満は無く、その環境を楽しんでいました。

現在では“新しい生活様式”で様々な規制がありますが、子どもたちは当時の私たちがそうだったように、自分たちの置かれた環境にすぐに順応している姿が見られます。

しかし、大人の世界ではこれを守ろうとすると、様々な障壁が現れます。特にPTA活動は難しく、どの学校でも思うような活動ができていないのが現状でしょう。

それでも、明るい街づくりのため、同級生である明健小のPTA会長や昔からの仲間と共に、子どもの時のようなたくましい適応力で「家庭・学校・地域」が一体となり真剣に楽しく取り組んでおります。



第53回日本PTA東北ブロック研究大会 第4分科会「健全育成」
福島県PTA連合会 大平 泉 (おおひら いずみ)

コロナ禍におけるPTA活動



晴れの表彰おめでとうございます

(敬称略・順不同)

1. 福島県PTA連合会会長表彰

◆感謝状受賞 30名

大内 広行 (前 福島県PTA連合会副会長) 他29名

◆団体 16団体

伊達市立上保原小学校父母と教師の会 他15団体

◆個人 68名

石山 剛 (前 いわき市PTA連絡協議会副会長) 他67名

2. 日本PTA全国協議会 会長表彰

◆団体

福島市立飯野中学校父母と教師の会

いわき市立御厩小学校PTA

◆個人

大内 広行 (令和元年度～令和2年度 副会長)

石井 洋平 (令和2年度 副会長)

3. 東北ブロックPTA協議会 会長表彰

◆団体

伊達市立掛田小学校父母と教師の会

大玉村立玉井小学校PTA

二本松市立小浜小学校父母と教師の会

二本松市立旭小学校PTA

二本松市立大平小学校PTA

郡山市立安積中学校父母と教師の会

いわき市立上遠野小学校父母と教師の会

◆個人

佐藤 晃 (令和元年度～令和2年度 副会長)

佐久間 佳代 (令和2年度 母親代表理事)

小玉 昭男 (平成30年度～令和元年度 事務局長理事)

高橋 正浩 (平成30年度～令和2年度 庶務部長)

菅野 智 (令和元年度～令和2年度 調査広報部長)

4. 日本PTA第42回全国小・中学校

PTA広報紙コンクール

文部科学大臣賞

福島市立飯野中学校父母と教師の会「KOMOREBI」

5. 優良PTA文部科学大臣表彰

只見町立明和小学校父母と教師の会

いわき市立久之浜中学校PTA

6. 優良PTA福島県教育委員会表彰

福島市立飯野中学校父母と教師の会

郡山市立熱海小学校父母と教師の会

南会津町立田島小学校父母と教師の会

安全互助会のお知らせ

本年度は、県下小中学校全体の99%が本会に加入し、そのうちの97%がⅣコースに加入しました。

次年度から学童賠償責任補償額の上限を1億円としたⅠコース(補償内容変更)とⅡコース(従来のⅣコース)、Ⅲコース(変更なし)の3つのコースに改定いたします。

全てのコースが令和4年4月1日から施行されます福島県自転車条例(自転車損害賠償責任保険等への加入義務)に対応された補償となっています。(特に、ⅠコースとⅡコースは、1億円の補償となっております。)

加入コースの再検討方よろしくようお願い申し上げます。なお、次年度の加入案内文書は1月上旬に各学校へ配付いたします。

【学童賠償事故(タブレット端末等破損)について】

①授業中に児童がタブレットを落として破損させた場合

*学校の指導管理に起因するため、補償対象外となります。

②休み時間に児童が机につまずいて、机の上に置いてあるタブレットを落として破損させた場合

*学校管理指導中ではなく、個人の責任が問えますので、補償対象となります。

③児童が学校から借りてきたタブレットを自宅で落として破損させた場合

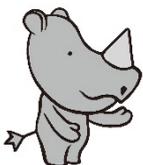
*他人から借用した時点でその借用物に対する管理責任が生じますが、本会では他人から借用し管理する財物の損壊については補償対象外となっています。

編集後記

コロナ禍で制限がある中、様々な工夫を凝らしながらPTA活動を行っていただきましたことに対し、敬意を表しますとともに、改めて感謝申し上げます。また、ご多用の中、原稿を執筆いただきました皆様、ありがとうございました。令和4年も、子どもたちの健やかな成長のために、みんなで力を合わせていきましょう。(調査広報部/T・K)

福島県PTA安全互助会補償制度

(学童・PTA会員傷害・賠償補償制度)



学童のケガや「熱中症」「食中毒」による入院・通院も補償対象となります。



詳しくは、福島県PTA連合会HPをご覧ください。



ふくしまっ子ども総合補償制度

(小・中学生総合補償制度)



O-157などの特定感染症や新型コロナウイルス感染症を発症し入院した場合や、自転車による高額な賠償事故にも対応しています。

共栄火災海上保険株式会社

東北支店福島支社 〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字三枚長1-1
TEL (024)554-3006 B21-1577-20221021